

第27回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演題	地域ニーズ把握からみた通所組織のブラッシュアップ
副題	ヨソモノ、バカモノ、ワカモノ(?)より

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ アサヒホーム
施設名	介護老人保健施設 あさひホーム
フリガナ	リガクリョウホウシ クヌギ ノブユキ
発表者(職名・氏名)	理学療法士 功刀 庸至
フリガナ	プロジェクトメンバー イチドウ
共同研究者	プロジェクトメンバー 一同

【目的】

前提として当施設の通所リハビリテーション(以下、デイケア)定員が30名に増加した経緯があり、デイケア創設者が6年前にこだわりの建築士に依頼した立派な建物・設備が少ない人数で利用されている状況であった。私が今年の3月に県外から入職してきた時には、「恵まれた環境下にありながら勿体ない」というのが正直な感想でありながらも、現職員が怠慢ということではなく、何かしらの変化が必要であると感じた。

そこで、ヨソモノの私ができることは「改革」ではなく「ブラッシュアップ」であり、そのための根拠が必要であると考えた。また、利用者様のニーズを把握しなければ舵取りは困難であり、当施設の理念は「利他の心」である。すぐに出来ることは「当たり前のこと」を当たり前にすることであり、まずはアンケート調査を実施して、結果を踏まえてブラッシュアップを実施した。

【方法】

- ① 利用者様向けアンケート
 - ② 介護支援専門員様(以下、ケアマネ)向けアンケート
- を実施した。内容はそれぞれ入浴や午睡、利用に至ったきっかけ、デイケアのイメージや、ソーシャルネットワークサービス(以下、SNS)などについてお伺いした。①利用者様向けについては各家庭のニーズを把握することを目的としているため、

名前を記載していただいた。②ケアマネ向けは本当の意見を頂戴したく、匿名とした。配布方法は①利用者様は利用日に配布し、ご家族に記入していただいて翌利用日を基本として回収した。②ケアマネ様には各事業所に訪問して所属ケアマネ枚数のアンケートをお渡しし、事業所ごと封筒にまとめて当施設宛に返送いただいた。

ご回答いただいたものをグラフ化し、資料としてデイケアスタッフとリハビリスタッフ、事務職員らと情報共有したうえでミーティングを実施し、改善策を話し合った。

【結果】

前向きなお言葉から辛辣なお言葉まで、多くの意見をいただくことが出来た。ニーズを踏まえたうえで入浴の実施人数や午睡の対象や方法、レイアウトの変更やリハビリを実施するスタンスなどの内容でブラッシュアップできた。また、新たにSNSを導入することで遠方のご家族に利用者様の様子を知らせることが出来たり、ご足労いただくなくてもある程度の施設紹介ができるようになった。

【まとめ】

理念をもって、自分たちでコントロールできることだけに焦点を絞ることで、特殊で画期的なことをしなくとも、極めてシンプルな方法で組織のブラッシュアップに繋げることができた。